

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	通いの場の創出と充実
大目標	<p>・地域が目指すべき姿 など</p> <p>高齢者が参加・活動する住民主体の「通いの場」に、各種リスクを抱える高齢者、趣味等のサークルや地域づくりに参加意向がある高齢者に参加してもらい、参加した高齢者同士支え合うことで、介護予防、日常生活上の支援体制の充実・強化と高齢者の社会参加の推進を一体的に図る。</p>
中目標	<p>・目指すべき姿を実現するための具体的な目標</p> <p>高齢者の自立支援と介護予防の取り組みとして、高齢者自身が担い手として活動する「通いの場」の創出と活動内容の充実に向けて取り組みを継続しながら閉じこもり、認知症、うつといった高齢者のリスクを軽減していく。</p>
小目標	<p>・目標達成のための具体的な施策 など</p> <p>通いの場の創出を引き続き継続するとともに、厚生労働省の示す、参加率8%の目標値を目指しながら、課題解決に向けた取り組みの実施により通いの場の増加・充実に図る。</p>

現状と課題
<p>にかほ市の人口推計では、2040年に向けて高齢化率は上昇していき、85歳以上の被保険者数が増えていきます。それに伴い2025年を過ぎても認定者数も増加する見込みであり、生活支援の必要な高齢者は増加していくことが予測されます。</p> <p>介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では、高齢者の認知症、うつ、転倒、咀嚼機能、閉じこもりの各種リスクが高くなっていることが分かりました。閉じこもりの傾向にある高齢者に外に出てもらい様々な活動に参加してもらおうことで、各種リスクの発生状況を低下させていく必要があると考えます。</p> <p>また、サークル活動へ参加している高齢者や、地域づくりに参加意向がある高齢者も多く、こうした高齢者が社会貢献できる場を創出することで、生きがいにつながるものと考えています。</p> <p>これらの多様な高齢者が参加、活躍できる「通いの場」を創出し、高齢者同士が支えあうことにより、介護予防、日常生活上の支援体制の充実と強化が可能と考えます。</p>

具体的な取組

(取組の対象者、参加者など)

第一号被保険者

(取組の内容)

- 年1回、通いの場についての情報交換会を実施します。
- すべての住民に介護予防への取り組みの大切さを普及啓発することで、参加率を上げるとともに、顔なじみの関係づくり、互助の関係づくりをすすめていきます。
- 通いの場に対し、講師派遣することで継続の必要性を説明します。
- 通いの場に対し、高齢者に対する保健事業や地域リハビリテーション活動支援事業を活用し、医療専門職による実技指導等により介護予防に関する意識を高めることができるようにします。

目標（事業内容、指標等）

●目標とする住民主体の通いの場の箇所数

	2024年度	2025年度	2026年度	2040年度
目標箇所数	50か所	52か所	54か所	55か所
参加者	750人	780人	810人	1,230人
高齢者人口	8,946人	8,910人	8,835人	7,466人
参加率	8.4%	8.8%	9.2%	16.5%

目標の評価方法

● 時点

中間見直しあり

実績評価のみ

● 評価の方法

施策の展開状況（整備状況、利用状況、運営状況）など

- 通いの場の設置箇所数を計上
- 通いの場への参加者数を計上
- 通いの場への参加率を計上

参加者への影響など

- 基本チェックリスト、質問票等により把握

地域への影響など

- 3年に1度実施するニーズ調査にて確認

取組と目標に対する自己評価シート（令和6年度）

後期（最終評価）

実施内容
<p>○現時点で実施実績のあるサロンは49箇所であり、前期から8か所が新規開設している。</p> <p>○新規開設に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none">・地域包括支援センターで行う出前講座（介護予防、認知症、終活）や地域リハビリテーション活動支援事業による講話を提供することで、担い手の負担を軽減し、新規開催しやすい環境づくりを行っている。・集落サロンを始める前のデモ的な「ミニ集落サロン」を設け、サロンを始めやすい環境づくりをしている。 <p>○担い手への支援</p> <ul style="list-style-type: none">・「介護予防 ボランティア活動ポイント」にてサロンの担い手活動にもポイント付与し、担い手の活動意欲の向上を支援している。 <p>○継続実施に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none">・出前講座の中で、集落サロンの効果や互助の必要性を講話し、地域への啓発に努めている・今までは、主に高齢者を対象とした集落サロンの周知を図ってきたが、令和6年度から重層的支援体制整備事業の地域づくり支援事業に集落サロンを位置付け、障がい者や子どもなど属性や世代を超えて交流できる場としている。
自己評価結果
<ul style="list-style-type: none">・デモ的な開催が8か所、その他の集落も開催方法を模索しながら昨年度以上の頻度での実施に至っており、実人数も増加傾向にある。【開催箇所49か所、実人数計1,171名、参加率12.9%（R6.3月末人口65歳以上9,024人）】・「月2回以上開催している所」が6か所、「月1～2回開催している所」が13か所、「月1回開催している所」が6か所となっている。
課題と対応策
<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・担い手不足により現在の担い手が疲弊している。・価値観の多様化により、趣味や仕事を優先し、地域の集まりには顔を出さない人が増加傾向にある。特に前期高齢者に多い。・地域のどのような集まりであっても顔を出さない閉じこもり傾向の人が一定数いる。 <p>【対応策】</p> <ul style="list-style-type: none">・担い手同志の情報交換の機会を作り、互いに有益な情報を得る場、課題に対する検討を行う場、担い手仲間を作る場としてもらい、担い手支援に繋げる。・閉じこもり傾向のある人を民生委員と連携し情報把握し、介護予防の啓発訪問等を行いながら地域の通いの場につなげていく。・集落サロンにてフレイルチェックを実施し、その地域の傾向を探ると共に、おススメの介護予防出前講座を紹介するなど、サロンの活動メニューの支援を行う。